

敬老パスの負担金を値上げしないで！ 市民団体が河村市長と懇談（9月19日）

10,186筆の署名を提出

9月19日に、年金者組合などでつくる「名古屋の宝・敬老パスの存続を考える会」実行委員会のみなさんが、河村市長に敬老パスの存続を求める署名（10,186筆）を提出し、懇談しました。



河村市長に署名を手渡す

『敬老パスを守る』という公約を守ってほしい

敬老パスについては、2011年の名古屋版「事業仕分け」で「見直し」の判定が出たのを受け、市社会福祉審議会の検討分科会が、今月の9日に、「負担金の引き上げの最終報告書」を取りまとめました。

こうした状況のもとで、年金者組合本部の伊藤良孝委員長らは、「名古屋の高齢者は敬老パスがあるからこそ元気に暮らせる、まさに敬老パスは名古屋の宝です。市長さん、絶対守ってください」「河村市長は

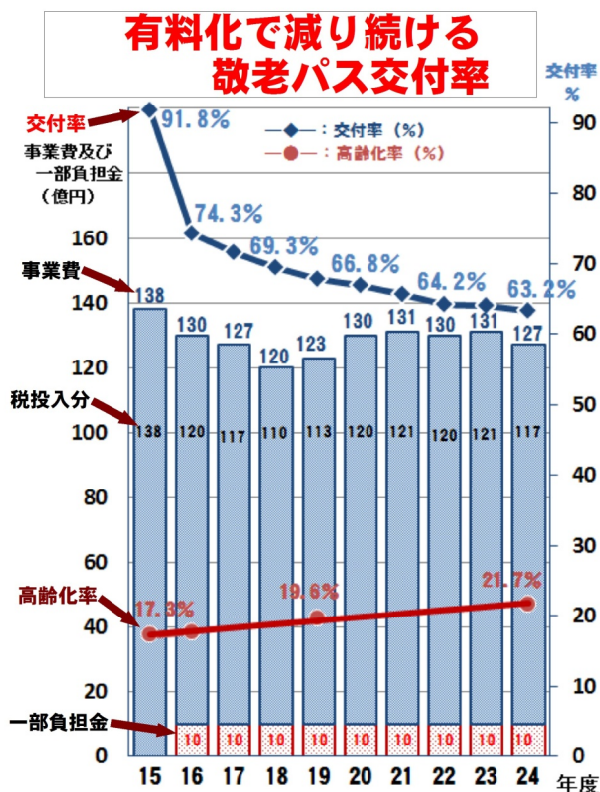
4月の市長選挙で『敬老パスを守る』と公約して当選した。公約を守ってほしい」と口ぐちに現行制度の維持を強く求めました。

持っていない人が4割（市長）

河村市長が「敬老パスは持っていない人が4割近くいる。市民に不公平があってはいかん」と答えると、考える会のみなさんからは「負担金が導入されてから交付率が下がった。負担金を上げれば交付率は低下する」「地下鉄がない区は交付率が低い。JRや名鉄にも使えるようにすれば交付率が増える」と強く要望しました。



市長と懇談する実行委員会。左手に市議団。



現行制度の維持を

一方で市長ももうすぐ敬老パスの仲間入りをするので「市長さんも私たちの仲間ですね」などと話が弾み、和やかな雰囲気にはなりましたが、河村市長は、最後まで「現行制度の維持」は明言しませんでした。

日本共産党市議団は「敬老パス守れ」と6月議会でも9月議会でも質問し、9日行われた集会でもともに運動をと呼びかけ、この日も同席しました。



9月9日の集会で訴えるさし議員